5/13

6月安保闘争に向けて
戦線の再構築を!

米帝は彼らが聖域とよぶ地帯に北ベトナム軍及び南ベトナム民族解放戦線(FLN)の司令部、作戦本部があり、そこを攻めれば大きな打撃を与え得ると信じ、北ベトナムからの補給路であるホーチミンルートやシアヌークルートを攻撃することによってインドシナにおける戦いの主導権をとりもどそうとしてカンボジアへ侵攻していった。彼らは国内に於ける反戦運動のもりあがりも計算していたであろうが、南部一帯を中心とする傀儡政権勢力に依存して切り抜けるつもりだったのだ。しかし、インドシナに於ける最戦部隊の投入にも拘らず、彼らは期待どおりの成果をあげていない。それどころか戦火はカンボジア全域に拡大し、首都プノンペン、ラオス、ベトナム、カンボジアの国境地帯では、ますます戦闘は激化している。このようにインドシナ全域に於てゲリラ戦が展開されていけば、ベトナムでみられた如く、米帝はまた泥沼にはまりこんでしまい、勝利することなど全く期待できないことは明らかである。彼らが「ファムドクトリン」に期待したベトナム化といわれる傀儡軍は今や大きな壁にぶつかろうとしているのだ。今こそ、中共、ソ連は自からも社会主義国と名乗るならば、北ベトナム、ラオス、カンボジアに対する米帝の北爆を阻止し、武装革命勢力によるアジア、世界革命に向けたインドシナ革命の実現のために極めて積極的な援助を行なうべきである。(特に空軍戦力の)

日帝は米帝のカンボジア侵攻に対して、いち早く賛美を表明し、そして米帝の軍事的支配を経済的にバックアップすべくアジア会議を積極的にリードしようとしている。日帝は「カンボジアの中立」ということを叫びたてているが彼らのいう中立とはカンボジアから一切の敵対勢力を撤退させ、アメリカCIAの策謀のもとに成ったロン＝ノル傀儡政権の反革命弾圧を続けさせることに他ならない。日帝は今や自からの過剰資本をますますアジアに投入しなければならないという情況にあり、その資本を守るために軍隊(自衛隊)を派遣することもすでに彼らのスケジュールに上っているのである。そしてその実現のために、国内に反共、反戦主義、大国主義のイデオロギーを充満させ、新左翼への破防法適用による事前弾圧(11日佐藤田は全国の公安関係者を集めて「過激派」には破防法でもって事前に弾圧せよと命じているのだ。)社共の体制内イデオロギーへの引込みも成さんとしているのだ。

しかし、佐藤が政治生命をかけてやり抜くと明言したはずの「沖縄返還」でさえも インドシナの戦火が拡大していけば1年にはあぶないと彼がことわらねばならないほどの情況が現在あらわれてきている。米帝のカンボジア侵攻は まさに帝国主義者にとって背水の陣に他ならないのだ。今日も米国内では三人の黒人が射殺されているのだ。全市大の学友諸君!6月安保闘争に向けて再度戦線を打築しようぐはないか。14日の関西統一行動に起て!

すけじゅーる

5/14 3U 米帝のカンボジア侵攻弾劾、外相のアジア会議参加阻止
市大総決起集会(生協大hall)

5/14 6U 全関西統一行動(扇町公園)
S反安保学生委
CII会議